

●ミニフォト

秦の歴史遺産を巡る



スタンプ集まったかな

10月28日、秦の郷スタンプラリーがサントピア岡山総社を発着点に開催されました。市内外から約300人が参加。一丁塚古墳などを巡り、チェックポイントでの接待やスタンプを集めてもらえる記念品に、笑顔がこぼれました。

圧巻の力強さ



備中温羅太鼓の演奏

11月4日、和太鼓フェスティバル2018が市民会館で開催されました。特別ゲストに愛知県の和太鼓集団「志多ら」を迎え、備中温羅太鼓ら8団体が競演。約900人の観客は、力強い太鼓の迫力に圧倒されていました。

おひつ形の集会所を設置



木のぬくもりを感じる空間

10月19日、西日本豪雨で甚大な被害を受けた下倉地区に「おひつコミュニティハウス」が開設されました。直径約3.5m、高さ3mの円筒形。真庭市から2年間無償貸与され、地域住民の交流の場として活用されます。

吉備路へ県立博物館を



講演に聞き入る参加者

10月27日、県立博物館を誘致する会主催の吉備路再発見講演会が、備中国分寺客殿で開催されました。岡山大学名誉教授の馬場俊介さんが「鬼ノ城と世界遺産登録の可能性」と題して講演。約100人の参加者が聞き入りました。

おいしそうな柿がいっぱい



上手に採れるかな

10月20日の観光柿園のオープンを前に18日、開園式が砂川公園内の同園で行われました。地元阿曾小学校の2年生25人が招待され、それぞれ柿の収穫に挑戦。悪戦苦闘しながらも採れた柿を手を、みんな笑顔でした。

被災地を元気に



元気に踊る神在幼稚園児

10月28日、神在小学校で、がんばろう下原神在災害復興応援イベントが開催されました。地元住民ら約470人が来場。神在幼稚園児による歌と踊り、双子デュオまゆみゆのスペシャルライブ、抽選会などで盛り上がりしました。

人手不足解消と就労を支援



事業所担当者の説明を聞く

10月17日、サンロード吉備路で、高梁市・総社市合同就職フェアが開催されました。雇用対策協定に基づき両市の30事業所が出席。市内外から参加した28人の求職者は、事業内容や勤務条件などを熱心に聞いていました。

子育て王国をPR



新調したバスに乗り込む

11月12日、新しく市が購入したバスのお披露目式を、西公民館で開催。西日本豪雨の被災者が招待され、名勝豪溪へ初乗りを行いました。バスは42人乗りで、子育て王国そうじやの「チュッピー」をラッピングしています。

歯を大切に



うさぎさんの歯石をとるぞ

天満屋ハッピータウンリブ総社店で、10月21日、吉備歯科医師会主催の吉備路お口の健康まつりが開かれました。指がたづくりや歯科医師体験コーナーは、親子連れらでにぎわい、歯科無料相談なども行われました。

身の回りの環境を考える

野口健環境学校

総社市環境観光大使の野口健さんを講師に迎えた環境学校が10月24日、維新小学校を主会場に行われました。

午前中、維新小学校児童27人と野口さんは、高梁川河川敷（種井地内）で清掃活動を実施。川の増水で流れ着いていたタイヤやペットボトルなどのごみを拾い集めました。午後からは同校体育館で講演会が行われ、児童のほか地元住民ら約150人も参加。野口さんは、「失敗の中こそ、成功のヒントがある。失敗を恐れずにチャレンジしてほしい」と熱く語りました。講演後、運動場へ市の木「もみじ」を記念植樹しました。

野口健環境学校は、毎年小学校単位で開催し、今年で10回目。



河川敷での清掃活動(写真上)。市の木「もみじ」の記念植樹(写真右)



赤米文化を未来に

赤米サミット2018 in 新本

赤米文化の伝承と関係市町の交流を目的に11月13日、新本小学校で「赤米サミット2018 in 新本」が開催されました。

サミットには、総社赤米大使の相川七瀬さんをはじめ、総社市、長崎県対馬市、鹿児島県南種子町の関係者らが参加。赤米を生かした地域振興や子どもを含めた交流について意見交換し、貴重な遺産である赤米文化を国内外に伝えていくために、日本遺産としての認定を引き続き目指す共同宣言を行いました。

サミットに続き、新本本庄国司神社神田で新本小学校5年生が参加し、赤米の稲刈りも行われました。



サミット宣言書を手にする関係者ら

地域づくり推進で表彰



表彰を受けたスタッフら

10月23日に備中県民局地域づくり推進賞の表彰式が、備中県民局で行われ、あそびのきちおひさま企業組合が表彰されました。子どもが心豊かに育つためのあらゆる事業を、地域を巻き込みながら実施したことが評価されました。

外国人にやさしく伝える



ワークショップで学ぶ

11月2日、総合福祉センターでやさしい日本語研修が行われました。近年増加している外国人住民とのコミュニケーション能力、窓口サービスの向上などを目的に、約50人の参加者がワークショップなどに取り組みました。

市民の生命、財産を守る



標的を放水で射抜く

消防団実戦放水訓練大会が10月28日、市消防署で行われました。市内18分団から消防団員ら約400人が参加。日頃鍛えた放水までの速さと正確さを競いました。優勝は服部分団、準優勝は下倉分団でした。